

市町村名		大宜味村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	大宜味村観光情報発信整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部課名	産業振興課・企画観光課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	県産品の販路拡大と 地域ブランドの形成	
事業内容	観光資源(文化財、自然資源、特産品、体験事業)などの情報をより効果的に広く発信するため、大宜味村産業まつり及びPRイベントを開催し、交流人口の増加を促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	1,650	7,706	9,550	12,550	14,550
	(b) 予算現額	1,650	7,310	9,550	12,550	10,050	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 396	0	0	▲ 4,500	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	1,650	7,310	9,550	12,550	10,050	
	B. 執行済額	1,650	7,310	8,525	9,138	6,103	
	うち交付金充当額	1,320	5,848	6,820	7,310	4,882	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	89.3%	72.8%	60.7%	
予算の状況の説明	・産業まつりについては当初計画していた事業内容はすべて実施した。 ・PRイベントについては、開催回数を前年度と同数行う予定でしたが、台風等により3か所のまつりが中止になったことなどによる不用額があり、その他に当初参加予定していた人数及び、旅費、委託料の見直しにより、費用を低廉に抑えるよう努めたことによる不用である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	産業まつり誘客イベント開催支援	目標	(3イベント)	(開催)	(開催支援)	(開催支援)	
		実績	3イベント	実施	実施	実施	
	PRイベント開催支援	目標	()	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	
		実績		実施	実施	実施	
情報発信の為にパンフレット等作成	目標	()	()	()	(パンフレット等作成)		
	実績				未実施		
達成状況説明	・産業まつり:令和2年1月18、19日(2日間)誘客増のための、①ステージイベント→大宜味村特産品セリ体験を実施(シークワサー苗・野菜)。②会場活用イベント→子供たちを対象とした木工体験や、重機の操作などを体験できる「わじゃキッズ」を実施。③会場イベント→村の特産品であるシークワサーの「接木講習会」を実施した。④会場活用イベント→アイモコの音楽農園の放送内でゆるキャラと児童参加のリレー対決を実施した。イベントを行うための会場設営費・放送費等を支援している。 ・PRイベント:①令和元年8月16日～18日(3日間)返子沖縄まつり 2,000人。②令和元年8月24日～26日(3日間)前橋「琉球の嵐」12,000人。③令和元年9月20日～22日(3日間)鶴見ウチナー祭 10,000人。④令和元年10月12日・13日かにえ町民まつり(台風19号により中止)。⑤令和元年10月13日いしのみき大漁まつり(台風19号により中止)。⑥令和元年10月25日～27日(3日間)西会津ふるさとまつり 1,000人。⑦令和元年10月25日～28日(4日間)石巻海の市 1,000人。⑧令和2年2月7日～9日(3日間)大阪なんばグランド花月 5,400人						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	大宜味村産業まつり来場者数	目標	()	(5,000人)	(5,500人)	(5,500人)	()
		実績		4,417人	4,734人	5,558人	
	PRイベント来場者数	目標	()	(4都市)	(15,000人)	(15,000人)	()
		実績		7都市	12,700人	21,400人	
進捗状況説明	・産業まつり:村と友好交流のある宮城県石巻市観光協会と漁協、秋田県湯沢市観光物産協会、福島県西会津町、愛知県蟹江町を招いてテナントブースにて特産品販売を行った。また、子供たちを対象とした重機の操作などを体験できる「わじゃキッズ」を実施し、ファミリー層の誘客を推進した。天候にも恵まれ、2日間の来場者数は5,558人と前年度に比べて約800人の増加となった。 ・PRイベント:令和元年8月～令和2年2月にかけて、6都市でPRイベントに取り組み、計9日間開催し、21,400人が訪れた。リピーターの来場も着実に増えており、前年度の交流人口より約8,000人の増加となっており、大宜味村の観光物産のPRを交流者に実施できたと考えている。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(産業まつり) ①前年度に比べ来場者数は増加しており、今後は来場者の定着が課題となる。 ②来場者数が増加に伴い、駐車場の確保が課題となっている。	(産業まつり) ①村外来場者の定着に向けて、広報や周知活動の更なる強化が必要である。子どもが楽しめる参加型のプログラムの実施や友好交流都市の特産品の販売も必要である。 ②臨時駐車場等の確保や産業まつり会場の変更について検討する必要がある。
	(PRイベント) ①台風の影響により、PRイベント開催回数が減少したものの、来場者数は増加しており、今後は大宜味村の認知度が低い方々へ効果的にPRすることが重要となる。 ②台風の影響を受けてイベントが開催できなかったことに伴い、予算に不用が生じたため、予算執行状況の把握と積極的な予算流用が課題である。	(PRイベント) ①より多くの方々へ大宜味村のPRをするために、開催場所について検討する必要がある。 ②イベントの開催ができずに予算の不用が生じる場合に向けて、予算管理の強化する必要がある。

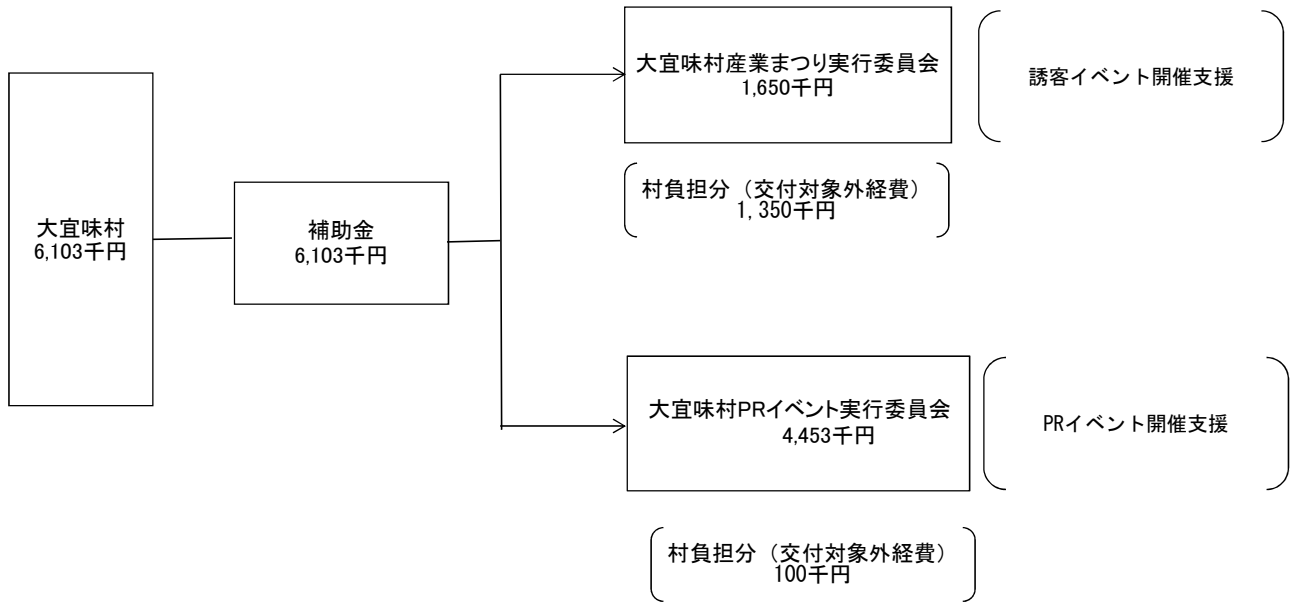
今後の取り組み方針

(産業まつり)
①まつりプログラムを早めに決定し、周知期間を長く設定するなど、来場者の定着に取り組む。今後も子どもが楽しめる参加型のプログラムの実施と友好交流都市を招待し、特産品の販売を行うことで多様な層の誘客に繋がると考える。
②別会場として「やんばるの森ビクターセンター(道の駅おおぎみ)」での開催について検討する。

(PRイベント)
①より多くの方々に大宜味村をPRするため、大都市をはじめ新規開催地での実施を検討する。
②不用の縮減に向けて、予算執行状況を随時把握し、不用が生じる場合には予算を減額・流用するなど適切に対応する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,553	6,103	4,882	1,221	1,450



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は産業まつり実行委員会及びPRイベント実行委員会となっており、事業内容に沿って妥当であった。 ○台風等の影響により、やむなく不用が生じたものの、予算規模は適正であった。 ○費目・使途についても必要なものに限定されており適切なものとなっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

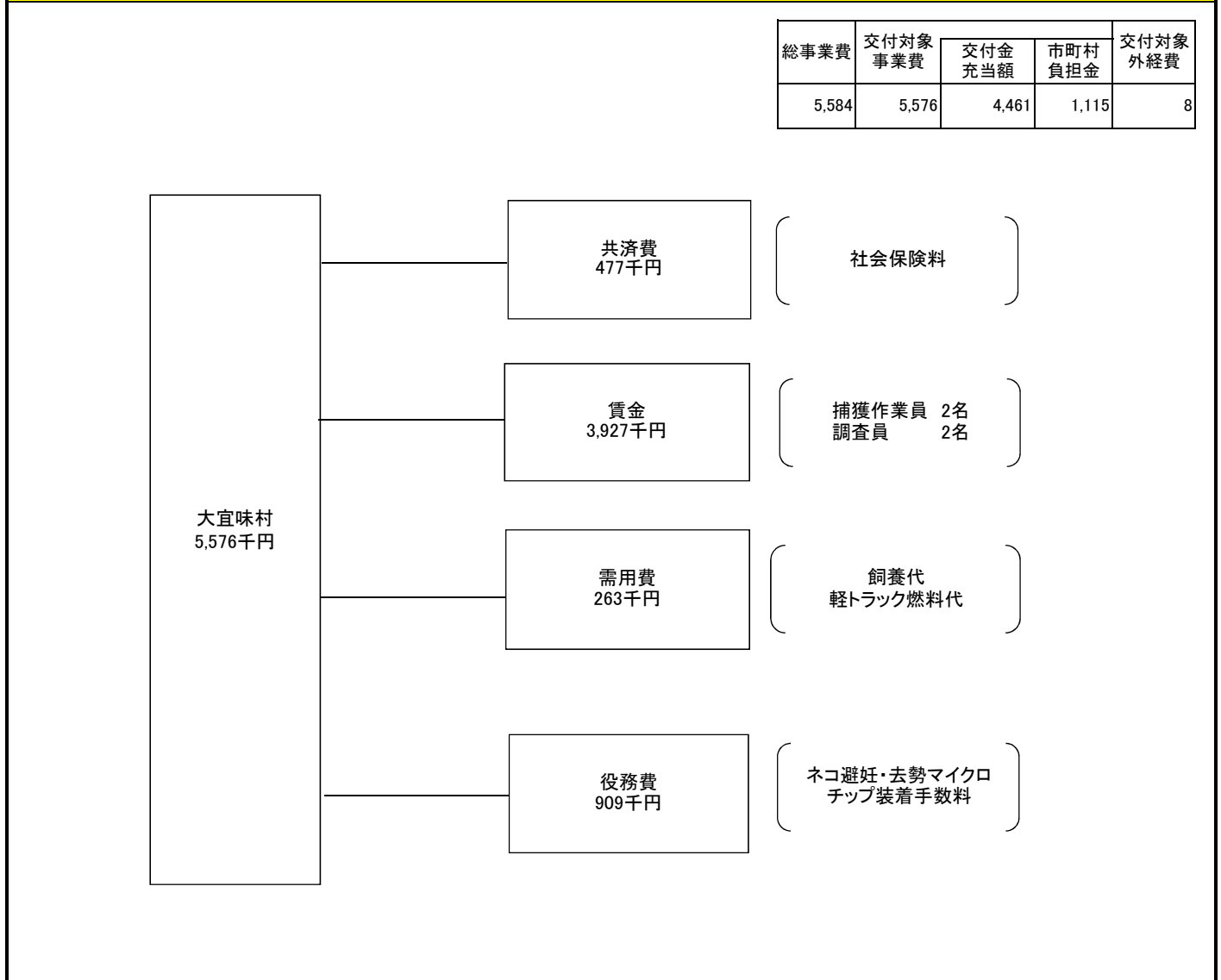
市町村名		大宜味村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②		環境保全・美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-(ア)	
	担当部署名	建設環境課		事業実施(予定)年度	平成28~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生物多様性の保全
事業内容		野良犬、野良猫、ハブ対策として環境保全の作業員による保護・捕獲器の設置、回収を行い地域住民や観光客の安全確保を図る。また、猫の適正飼育の周知や、猫の譲渡強化等を図る。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,069	5,594	5,549	5,724	
		(b) 予算現額	4,575	5,594	5,549	5,724	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,494	0	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	4,575	5,594	5,549	5,724	
	B. 執行済額		4,228	4,756	4,953	5,576	
	うち交付金充当額		3,382	3,805	3,962	4,461	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		92.4%	85.0%	89.3%	97.4%	
予算の状況の説明		当初の計画どおり事業を実施しており、残額は実績の確定に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	賃金作業職員(2人) 賃金調査職員(2人)	目標	(3人)	(3人)	(4人)	(4人)	
		実績	3人	3人	4人	4人	
	各保護・捕獲器の設置 (ハブ:30台、犬:3台、猫:10台)	目標	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	(ハブ30台 犬3台 猫10台)	
		実績	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	ハブ30台 犬3台 猫10台	
	猫の譲渡の実施	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
実績			実施	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 賃金職員を4人配置し、2人は集落内の野良ネコ調査、2人はハブ捕獲器設置回収、犬・猫の保護器設置回収を実施し、ハブを34匹の捕獲、犬を2匹、猫を116匹保護した。 観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ、ハブ捕獲器の設置、野良犬・野良猫が多い地域へ犬・猫保護器を設置したことにより、ハブの捕獲、犬・猫の保護を行い事業実施をすることができた。 村が保護し住民へ譲渡した猫に対して、猫の避妊・去勢等を目標どおり実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	①ハブ咬傷被害:1件以下	目標	()	(2件以内)	(1件以下)	(1件以下)	()
		実績		2件	2件	1件	
	②ヤンバルクイナの生息率:15.4%以上	目標	()	()	(16.7%以上)	(15.4%以上)	()
		実績			15.40%	23.10%	
	③保護した猫の譲渡:40件以上	目標	()	()	(40件)	(40件以上)	()
		実績			37件	39件	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ハブ咬傷被害は1件であり、目標達成となった。 ヤンバルクイナ生息率については、23.1%となり、目標を達成した。 ネコの譲渡件数については、39件となり、目標にはわずかに届かなかった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ハブ咬傷被害の未然防止については、観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へハブ捕獲器を設置しているが、咬傷被害が一定数あることから、咬傷被害減少への更なる注意喚起が必要であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ハブ咬傷被害の未然防止について、継続して観光地周辺及び、村内で目撃事例が多数報告されている地域へ捕獲器設置、ハブ咬傷被害があった個所の捕獲器設置を行い、また、村内放送等で注意喚起を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ヤンバルクイナの生息率については、大宜味村での目撃も多数あるため引き続きネコの適正飼養の設定を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ヤンバルクイナにとってネコは脅威であることから、村内の区長に協力を得ながら情報把握に努め、野良ネコが増えないようにする取り組みが求められる。
	<ul style="list-style-type: none"> ネコの譲渡について、地域への周知活動を行ったが、目標達成には至らなかった。飼養している方も多頭飼育が多く見られ、飽和状態になっている可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ネコの譲渡に関して、村内のみならず、村外や他団体との連携を視野に入れながら譲渡強化すると共に、適正飼育の徹底を促す。

今後の取り組み方針

- ハブ咬傷被害の未然防止について、継続してハブ捕獲器を設置し、観光地周辺へハブ咬傷被害防止の周知を行う。
- ネコの適正飼育及び、野生化したネコの保護、避妊去勢の推進を行う。
- ネコの譲渡に関して、広報や、村外及び県外への譲渡も視野に、適正飼育の徹底を促す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、 点 検、 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○賃金職員の採用については、村の規則に準じ採用した。 ○予算規模については、97.4%の執行率となり、委託費及び消耗品の残額であり、事業規模は適正である。 ○費目・使途については、事業実施に必要な不可欠なものであり、計画・支出等に関する書類により確認・適正である。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	ふるさと河川環境再生・活用整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-(イ)	
担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全	
事業内容	大宜味村謝名城・喜如嘉地区の魅力あるむらづくりとリンクさせた地域の活性化を図るため、河川敷の空間の有効活用、治水安全度の向上や河川全体の自然環境再生を視野に大川川とその周辺整備を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
		(a)当初予算額	78,125	-	169,203	-	99,151
	(b)予算現額	83,439	-	146,630	-	99,151	
	(c)増減額(b-a)	5,314	-	▲22,573	-	0	
	(d)繰越額	-	83,144	-	146,630	-	
	A.計(b+d)	83,439	83,144	146,630	146,630	99,151	
	B.執行済額	284	83,144	0	103,485	98,835	
	うち交付金充当額	227	66,515	0	82,787	79,068	
	次年度繰越額	83,155	0	146,630	0	0	
	執行率(%) (B/A)	0.3%	100.0%	0.0%	70.6%	99.7%	
予算の状況の説明	予定していた整備箇所の護岸整備工事を年度内に完了することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	護岸整備工事の実施 L=200m		目標 (工事の実施)	(工事の実施)	(L=165m)	(L=200m)	
			実績	工事の実施	工事の実施	L=239m	
達成状況説明	・整備箇所の現場状況に伴う工法変更等があり、当初予定していた護岸整備の延長200m(両岸)に僅かに及ばなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)
	累計河川工事整備率 64% (1,658m/全体延長2,600m)		目標 ()	(56%)	(64%)	()	()
			実績		59%	63%	
	【R4成果目標】整備した河川周辺で花見客数 6,500名以上		目標 ()	()	()	()	(6,500名以上)
			実績				
	【R4成果目標】整備した河川周辺での環境学習参加者数 500名以上		目標 ()	()	()	()	(500名以上)
		実績					
進捗状況説明	・累計河川工事整備率は、63%(累計整備延長1,638m/全体延長2,600m)となり、わずかに目標に届かなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・整備箇所現場状況に伴う工法変更等があり、当初予定していた護岸整備の延長200m(両岸)に僅かに及ばなかったため、累計河川工事整備率63%にとどまった。</p>	<p>・現場状況に見合った工法検討を行い、事業執行に支障が出ないよう対策する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・現場状況を十分に把握し、適切な工法検討を採用することにより、河川整備の円滑な進捗を図り、観光誘客や環境教育の場としての活用に取り組む。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	98,835	98,835	79,068	19,767	0
<pre> graph LR A[大宜味村 98,835千円] --> B[工事請負費 98,835千円] B --> C[株丸孝組 98,835千円] subgraph Project [] C end </pre>					

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定は指名競争入札で決定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模については、年度内で工事を完了したこともあり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 大宜味村

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	確かな学力を身につける教育の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 将来の大宜味村を担う大宜味村の児童生徒の基礎学力の定着を図る為、村内の小学校1校と中学校1校に学習支援員を配置する。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	10,911	8,818	11,108	11,175	11,175
	(b) 予算現額	10,911	8,802	10,046	11,175	11,175
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 16	▲ 1,062	0	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	10,911	8,802	10,046	11,175	11,175
	B. 執行済額	10,891	8,670	9,853	10,106	10,742
	うち交付金充当額	8,713	6,936	7,882	8,084	8,593
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	99.8%	98.5%	98.1%	90.4%	96.1%
予算の状況の説明	事業開始当初から学習支援員の人員確保ができて円滑な事業実施ができた。社会保険料について年齢40歳以下の支援員が多かったため、介護保険料の捻出がなく予算残額が出た。					

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		小学校 3名(低・中・高学年 各1名)	目標	(1小学校×3人)	(1小学校×3人)	(1小学校×3人)
	実績	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人	1小学校×3人	
中学校 2名(1年～3年2名)	目標	(1中学校×1人)	(1中学校×2人)	(1中学校×2人)	(1中学校×2人)	
	実績	1中学校×1人	1中学校×2人	1中学校×2人	1中学校×2人	
達成状況説明	・村内の小学校1校に3名、中学校1校に2名学習支援員を配置した。					

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	()	(5ポイント以内)	(0ポイント以内)	(-1.5ポイント以上)
	実績		+0.4ポイント	-6.4ポイント	-3.1ポイント	
	目標	()	(5ポイント以内)	(-1.5ポイント以内)	(-1.0ポイント以上)	()
	実績		-8ポイント	0.1ポイント	5.8ポイント	
進捗状況説明	・小学校について、県平均正答率との差は、-3.1ポイントとなり、昨年度より差を縮めることができたものの、目標の達成には至らなかった。 ・中学校について、県平均正答率との差は、5.8ポイントとなり、目標を大きく上回る結果となった。					

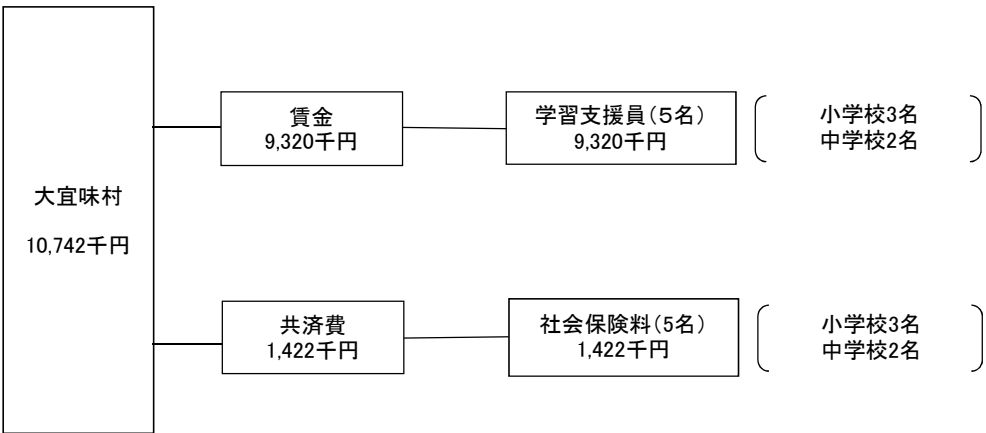
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては全教科平均点が沖縄県平均を-3.1ポイント下回ったが、前年比較においては大幅にポイント差を縮めることができた。 ・中学校において、全教科平均点が県平均を上回っており成果がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は沖縄県到達度調査において沖縄県平均を下回る結果となっている。補習活動の強化や支援体制の改善を行い、昨年よりもポイントを上げることができたが、まだ目標に達することができない状況である。今後の取組として更なる補習期間の拡大や各困り間のある児童生徒個々に対する支援内容の検討見直しを強化する必要がある。 ・中学校は引き続き支援人を2名配置し行き届いた環境の維持が求められる。

今後の取り組み方針

・小学校においては1校あたりの支援員配置人数が適正であったが、補習期間の拡大や各困り間のある児童生徒個々に対する支援内容の検討見直しを強化する。
 ・中学校は、成果目標の達成状況から見ても、支援による効果が大きいため今後も維持していきたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
10,742	10,742	8,593	2,149	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。 ○予算規模について、不用率は5%以内であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②		地域支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
	担当部課名	教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
事業内容		学校と地域の連携を充実させ、不登校やいじめ等に対して生徒を支援する地域支援員を配置する。					Ⅲ-3-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,182	2,216		2,235	2,235
		(b) 予算現額	2,195	2,200		2,235	2,235
		(c) 増減額(b-a)	13	▲16		0	0
		(d) 繰越額	-	-		-	-
		A. 計(b+d)	2,195	2,200		2,235	2,235
	B. 執行済額		2,195	2,128		2,201	2,158
	うち交付金充当額		1,756	1,702		1,760	1,726
	次年度繰越額		0	0		0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	96.7%		98.5%	96.6%
予算の状況の説明		当初の計画どおり事業を実施しており、残額は賃金及び共済費の確定に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	地域支援員配置数 教育委員会1人 (対象:小学校及び中学校)		目標 (1中学校×1人)	()	(1人)	(1人)	
			実績 1中学校×1人		1人	1人	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・地域支援員を小中学校に1人配置しており、不登校生徒の登校支援や登校後の校内学習・活動を主にサポートすることができている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	支援対象の不登校気味児童生徒のうち、不登校に至らなかった児童生徒の割合100%		目標 ()	(100%)	(100%)	()	()
			実績	100%	100%		
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	・不登校気味の児童生徒を不登校にさせないことを目標とし、支援員の配置によりきめ細やかな支援を行った結果、目標達成することができた。						

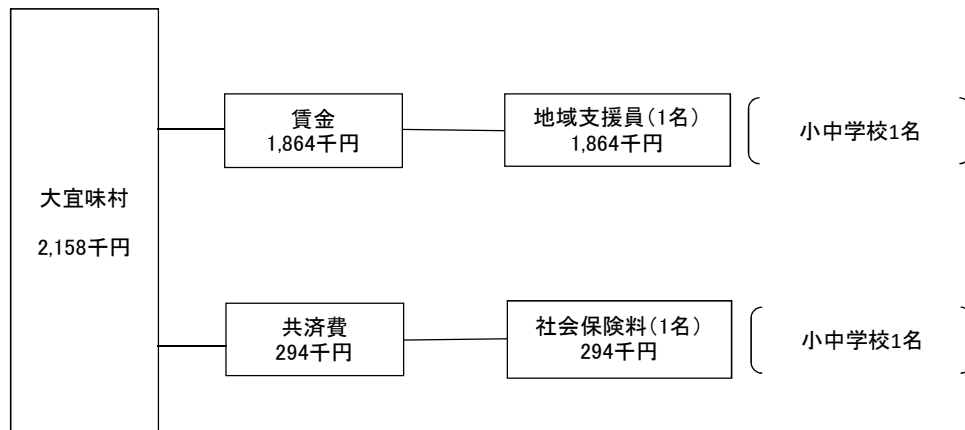
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援員だけでなく外部機関(教育委員会や民生員)と定期的に情報交換を行うことで、児童生徒を取り巻く諸問題に早急に対処できる体制となっていることが目標達成の要因と考えられる。 ・児童生徒間のトラブルや進学時の環境の変化への戸惑いから不登校気味になる場合もある。 ・現在、小学校において登校渋りの児童が複数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援員が主となり小中学校の養護教諭、貧困対策コーディネーター、教育相談員、児童クラブ代表で月一回の情報交換会を行い、児童生徒の諸問題等について密な連携がとれる体制が整っているため、引き続き関係性の維持が望まれる。そうすることで問題を抱える子供達一人一人に合った支援体制に繋がる。 ・登校渋りの児童においては、保護者が課題を抱えていることもあることから、家庭の巡回を行いつつ新たな取り組みとして、家庭への連絡作業も取り入れ、密な関係性を構築する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・今後も地域支援員と教育分野(教育委員会、教育相談員)、福祉分野(民生員)との連携を図り、地域全体で児童生徒並びに保護者への支援体制を継続する。
- ・環境の変化が特に大きい小中学校進学時においては重点的なケアを行い、日々の児童生徒の交友関係にも気を配り、引き続ききめ細かな支援を行う。
- ・今年度においてはコロナ渦の影響により登校しぶりが増える可能性があるため、休校期間や学校生活による児童生徒の状況把握を広く行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,158	2,158	1,726	432	0



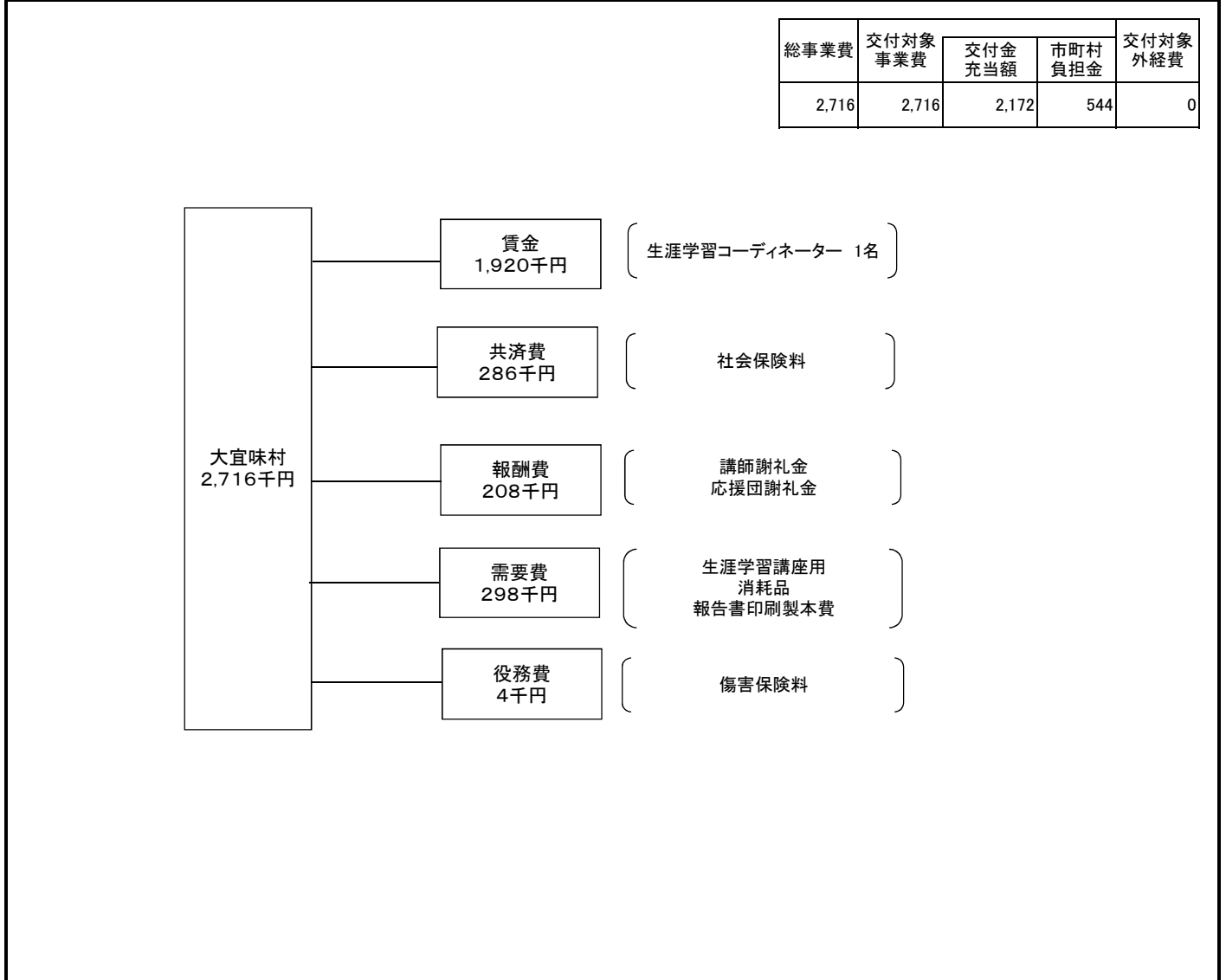
資金の流 れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の採用については、公募により行っており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模について、不用率は5%以内であり、適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要な支援員の賃金と共済費を支払った。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村				
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-③ 「ぶながやの里」地域人材育成支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(2)-イ	
	担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度		生涯学習社会の実現
沖縄振興基本方針該当箇所				Ⅲ-3-(1)		
事業内容		各社会教育団体の生涯学習活動及び青少年の学校外活動における学習機会の拡充を図り、その活動を通して本村の自然や文化、社会への基礎的な興味関心を培い、地域リーダーとなる人材の育成を図るため、生涯学習活動事業を展開する。				
効果発現年度		■当年度 □後年度(年度)				
実施方法		■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()				
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	2,517	2,306	2,477	2,523
	(b)予算現額	2,517	2,261	2,477	2,535	2,995
	(c)増減額(b-a)	0	▲45	0	12	472
	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	2,517	2,261	2,477	2,535	2,995
	B.執行済額	2,459	2,227	2,373	2,411	2,716
	うち交付金充当額	1,967	1,781	1,898	1,929	2,172
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	97.7%	98.5%	95.8%	95.1%	90.7%
予算の状況の説明		講師補助員等を増員し事業効果を高めるため、472千円増額した。事業計画どおり全て実施した。不用額279千円は共催イベントによる講師謝礼金の残額や消耗品数量の減などによるものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	生涯学習講座 12回以上開催	目標	(10回)	(12回)	(12回)	(12回)
		実績	12回	13回	15回	13回
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	・生涯学習講座を13回(青少年向け6講座6回、成人者向け6講座7回)開催し、目標を達成できた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(H25年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		目標	(100名)	(120名)	(276名)	(252名)
	実績		391名	394名	776名	
	目標	()	()	()	()	()
実績						
進捗状況説明	・生涯学習講座を13回(青少年向け6講座6回、成人者向け6講座7回)開催、講座受講者数は合計776名となり、目標を達成できた。 ・R1年度は村内で県民向けに教育委員会共催のイベントを行ったため、参加人数が大きく増加している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を大きく上回る受講者数となり、多くの方に学習機会を提供することができたことから、引き続き生涯学習講座の内容充実が重要である。 ・青少年向けの講座については、例年土日開催であったがR1年度は学校行事や村の行事、部活等との重なりを考慮し、平日、土日両方(平日開催4回、土日開催2回)で実施した。引き続き、多くの青少年が受講できるような開催日程の設定に留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続的に住民の学習機会を確保・拡充し、地域のリーダーとなる人材の育成を図るため、本村の自然や文化等について興味関心が高まる講座内容を検討する必要がある。 ・講座の開催日程については、多数の受講が可能となるような日程の設定について、配慮する必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習講座の内容を充実させ、本村の自然や文化等についての興味関心を高める取り組みを実施する。 ・多数の受講が可能となるよう開催日程を検討し、講座を展開していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法について、生涯学習コーディネーターは、村の配置要綱に基づき採用しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○講師謝礼金の残額や消耗品数量の減などがあり、不用が生じたものの、予算規模は適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	児童生徒等県外派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	大宜味村に在住する児童・生徒(小学校・中学校・高校生)に対し、県外で開催される運動競技又は文化関係の大会等へ参加する際の派遣費用を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	1,122	1,075	925	901	911
	(b) 予算現額	722	500	540	688	911	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 400	▲ 575	▲ 385	▲ 213	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	722	500	540	688	911	
	B. 執行済額	654	359	520	496	327	
	うち交付金充当額	523	287	416	397	261	
	次年度繰越額	-	-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)	90.6%	71.8%	96.3%	72.1%	35.9%	
予算の状況の説明		・不用額167千円については、派遣見込みを考慮し確保していたが、県大会での敗退や新型コロナウイルス感染拡大防止対策による大会の中止があり、不用となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	児童生徒への県外派遣支援	目標	(支援の実施)	(支援の実施)	(支援の実施)	(支援の実施)	
		実績	支援の実施	支援の実施	支援の実施	支援の実施	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	児童生徒への県外派遣の支援として、11大会(空手、水泳、ソフトテニス、ホッケー等)へ延べ22名の派遣を支援した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
			()	(80%)	(80%)	(80%)	()
	派遣された児童・生徒の保護者へアンケートで、児童・生徒が県内ではできない経験ができたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。	目標		100%	100%	100%	
		実績					
		目標	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	令和元年度に実施した保護者へのアンケートでは、「県内ではできない経験ができたか」の設問について、「大変できた」との回答が100%であり、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・派遣を想定していた大会の中止等により、予算に不用が生じる場合があるため、予算執行状況の把握と積極的な予算流用が課題である。</p>	<p>・派遣予定の大会の中止等により、予算の不用が生じる場合に向けて、予算管理を強化する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・不用の縮減に向けて、予算執行状況を随時把握し、不用が生じる場合には予算を減額・流用するなど適切に対応する。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">654</td> <td style="text-align: center;">327</td> <td style="text-align: center;">261</td> <td style="text-align: center;">66</td> <td style="text-align: center;">327</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	654	327	261	66	327			
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
654	327	261	66	327										
<pre> graph LR A[大宜味村 327千円] --> B[補助金 327千円] B --> C[児童生徒 (22名) 327千円] </pre>														

資金の流 れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援対象となる大会や児童生徒は、交付要綱に基づいており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○大会の中止等により、やむなく不用が生じたものの、予算規模は適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者は、対象費用の5割を負担しており、負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は、額の確定時に検査しており、適正であった。

市町村名		大宜味村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	カラキ活用推進プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-(イ)	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 III-1-(4)	
事業内容	カラキ(オキナワニッケイ)をシナモンとしての価値に着眼し村内の地域資源として活用し、苗木生産から一次加工、商品開発・ブランド構築までを一貫して行い、地域内連携を推進しながら農林業の振興、観光の振興、人材育成等の地域振興を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,690	7,389	10,046	14,330	
		(b) 予算現額	13,525	6,871	9,646	4,570	
		(c) 増減額(b-a)	835	▲ 518	▲ 400	▲ 9,760	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)		13,525	6,871	9,646	4,570	
	B. 執行済額		13,039	6,731	9,588	4,243	
	うち交付金充当額		10,431	5,384	7,670	3,394	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		96.4%	98.0%	99.4%	92.8%	
予算の状況の説明		前年度の台風の影響により、苗木の増植、商品開発等に必要な枝葉の数量が不足していることから、取組内容を縮小せざるを得ない状況であったことから、9,760千円減額した。最終的な作業日数や検討会の謝礼金減額の確定に伴い、327千円の不用が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・苗木の栽培育成 ・定植苗の配布 ・加工法の検討 ・PR活動の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	・挿し木5,000本の実施	目標	(5,000本)	()	()	()	
実績		5,000本					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・味・香りの優良な系統を挿し木による増殖を行い、栽培育成を実施した。 ・カラキの1次加工の際に必要な機械や施設について加工の実施体制について検討を実施した。 ・村産業まつりにおいてカラキのPRとアンケートを実施した。 ・5,000本の挿し木を実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)
	・前年までの挿し木の管理及び剪定方法と萌芽状況確認 ・定植苗配布 ・加工商品開発のための加工法の検討をする	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	【R4成果目標】 ・開発した商品を活用し村内事業者11店舗以上	目標	()	()	()	()	(11店舗)
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・前年までの挿し木の管理及び剪定方法と萌芽状況確認・・・平成28年度作成の苗は鉢上げを行い、551鉢の定植用苗が出来た。平成29年度作成の苗は鉢上げを行い、550鉢の定植用苗が出来た。平成30年度作成の苗は、現在は苗床に育成中で約960本が残っている。剪定方法については縦方向へ枝を伸ばす剪定よりも横方向へ枝を伸ばすような剪定の方法が葉の収量が上がる傾向が見られた。 ・定植苗配布・・・平成28年度分作成の定植用苗の551鉢のうち生育の良好な270鉢を会員に定植実験のために配布を行った。 ・加工商品開発のための加工法の検討をする・・・北部地域の加工会社3社(A,B,C)で加工試験を行ったが、名護市A社とC社の2社が品質面・価格面でも妥当との判断となった。 ・挿し木の完了・・・5,000本の挿し木をすることが出来た。 ・PR活動を実施する・・・村産業まつりにおいて、800枚のカラキPRチラシの配布、800名にカラキ茶の試飲、800個の試食を行い、カラキについてPRをすることが出来た。 					

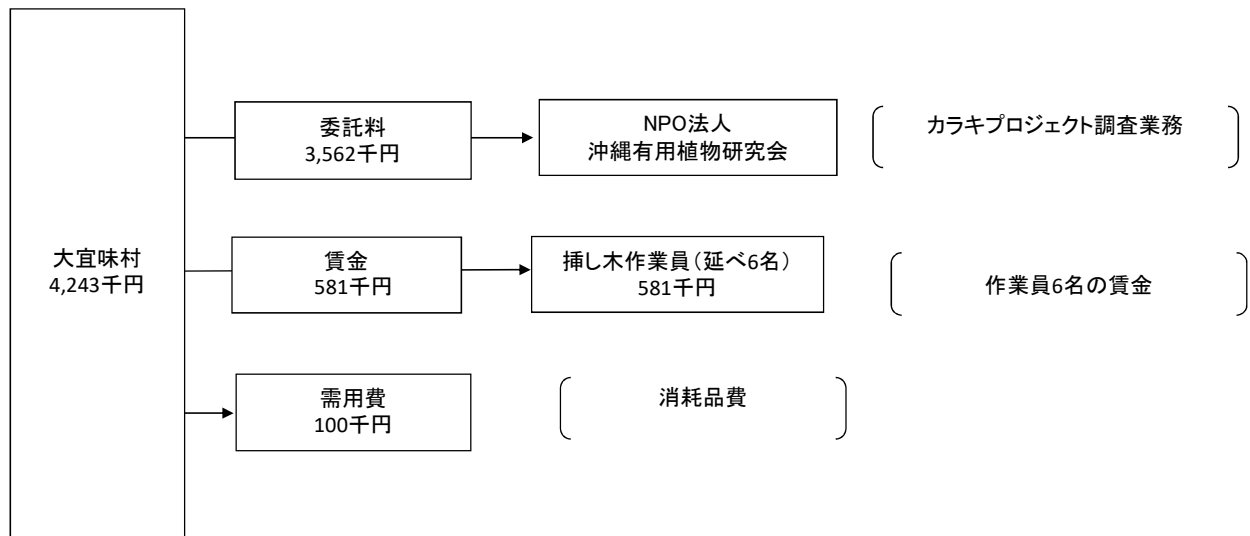
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 挿し木の増殖については優良母樹からの適当な太さの穂木が少なくなり、5,000本の挿し木をするのが困難になった。 剪定方法の検討については、サンプル数がまだ少ないので大まかな傾向しか見られない。 加工法の検討については名護市内の2社が妥当との判断だったが、品質面での検討の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿し木の増殖については、村内での苗木の配布状況を考慮しながら増殖方法の検討する。 剪定方法の検討については、試験のサンプル数を増やして検討する。 加工法の検討については、妥当とされた2社について更なる品質面での検討を行う。

今後の取り組み方針

- 苗木の増殖については、挿し木以外の方法も検討する。
- 剪定方法についても引き続きサンプル数等を増やして葉の収穫量を上げる方法を検討する。
- 1次加工・2次加工についても引き続き、関係者と話し合いを続け、持続的にカラキの加工・商品化が出来るよう取り組む。
- 市場調査及び商品開発については、イベント等を活用してシナモンとの違いなどをPRしながら行う。
- また、食品関係者や消費者へも広くPRするためのシンポジウムの開催に取り組む。
- 商品化の方法については県内の食品メーカーや洋菓子店舗と交渉し、協同で製造販売出来る体制の構築に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,243	4,243	3,394	849	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式により契約事業所を選定し随意契約を締結しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○前年度の台風の影響により、苗木の増殖、商品開発等に必要な枝葉の数量が不足したことによる影響からやむなく不用が生じたものの、予算規模は適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		大宜味村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	大宜味村幼保連携型総合施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-(イ)		
担当部課名	子ども子育て支援室	事業実施(予定)年度	平成28~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実		
事業内容	子どもを産み育てやすい環境を整備する為、働く保護者等の子育て支援の充実を目的に、就学前の幼児教育・保育を一体的に提供することができる幼保連携型総合施設の整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	17,159	-	64,918	359,019	
	(b) 予算現額	17,159	-	58,934	380,812		
	(c) 増減額(b-a)	0	-	▲ 5,984	21,793		
	(d) 繰越額	0	15,070	0	0		
	A. 計(b+d)	17,159	15,070	58,934	380,812		
	B. 執行済額	2,089	12,206	57,454	364,951		
	うち交付金充当額	1,671	9,764	45,963	291,961		
	次年度繰越額	15,070	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	12.2%	81.0%	97.5%	95.8%		
予算の状況の説明	当初の想定を上回る労務単価等の高騰により、予算を増額した。 外構工事の工期延長等により工事費増額が発生する事が見込まれた為、予算の不用処理の判断が年度末まで行えなかったため、不用が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	令和2年度の施設開園に向けた事業の着実な実施(建築、外構工事、建築監理業務、備品購入)	目標	(事業の着実な実施)	()	()	()	
		実績	事業の着実な実施				
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	・令和2年度の施設開園に向け、建築、外構工事、建築監理業務、備品購入を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R2年度)
				(完了)	()	()	()
	令和2年度の施設開園に向けた事業の着実な実施(建築、外構工事、建築監理業務、備品購入の完了)	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
【R2成果目標】 子育て支援が充実したか(80%以上)を含め、当該施設のあり方についてアンケート調査により検証する。	目標	()	()	()	()	(80%)	
	実績						
進捗状況説明	・令和2年度の施設開園に向け、建築、外構工事、建築監理業務、備品購入を完了した。						

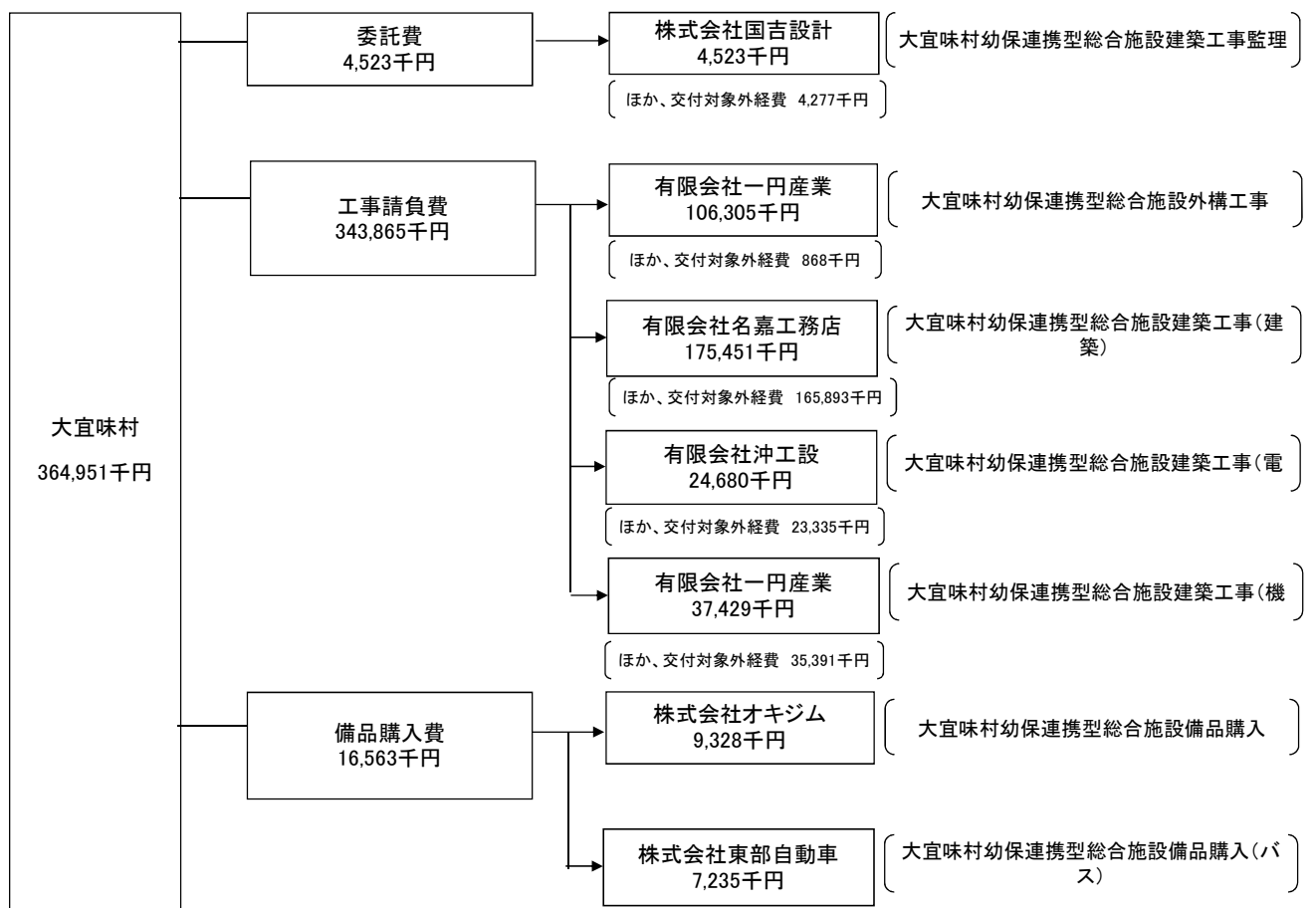
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	新施設の開園に伴い、施設設備などのハード面は充実したが、職員の増員及び園経営、子育て支援計画の新たな設定に伴い、目標としている子育て支援の充実に向けて、ソフト面での具体的な取組について再度職員一人一人が理解する必要がある。	ソフト面での取組については新たに設定した園経営及び子育て支援計画を職員一人一人が理解することで効率的な目標達成が行えると考えられる。

今後の取り組み方針

園経営及び子育て支援計画を職員一人一人が理解し、子育て支援が充実したか(80%以上)を含め、当該施設のあり方についてアンケート調査により検証し、より保護者からの満足度の高い子育て支援の提供を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
594,715	364,951	291,961	72,990	229,764



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、指名競争入札で選定しており妥当であった。 ○予算規模について、不用は5%以内であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	大宜味村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	喜如嘉の芭蕉布魅力発信事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ		
担当部課名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	令和元~令和2年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	伝統工芸品等を活用した感性型 ものづくり産業の振興 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	国指定重要無形文化財である喜如嘉の芭蕉布の保存継承を図るため、着物を制作し、やんばるの森ビジターセンター(道の駅おおぎみ)に展示するとともに、イベントの際に着付け体験や作業体験等を実施し、喜如嘉の芭蕉布の魅力を発信する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	予算の 状況	(a)当初予算額	4,664				
		(b)予算現額	4,664				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	0				
		A. 計(b+d)	4,664				
	B. 執行済額		4,660				
	うち交付金充当額		3,728				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		当初の計画どおり事業を実施した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	喜如嘉の芭蕉布着物を制作	目標	(2着以上)	()	()	()	
		実績	2着				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	芭蕉布着物を2着制作し、活動目標を達成した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (R3年度)
	年度内での制作完了及び展示	目標	()	(制作完了 展示)	()	()	()
		実績		制作完了 未展示			
	【R3成果目標】 喜如嘉の芭蕉布及びその伝統工芸技術に ついて、興味・関心をもてたか(80%以上) を含め、施設来場者に対するアンケートによ り本事業の在り方を検証する。	目標	()	()	()	()	(80%以上)
		実績					
進捗状況説明	芭蕉布着物については年度内に制作することができたが、展示までに至らなかった。						

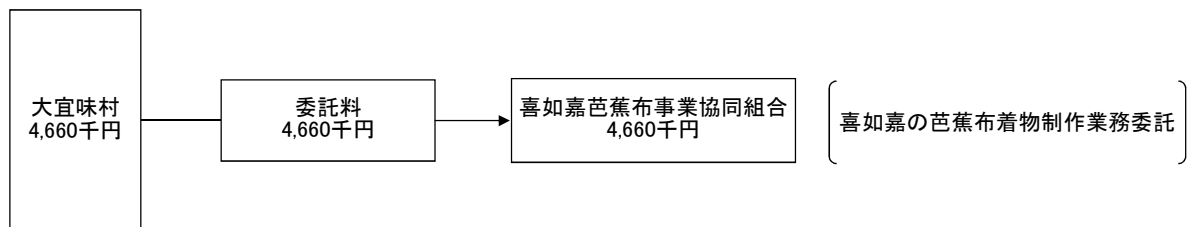
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・当初そのまま展示する予定であったが、工芸品として価値が高い喜如嘉の芭蕉布着物については、適切に保存管理をするべきとの学芸員等から意見があり、R1年度内での展示には至らなかった。 ・さらなる魅力発信に向けて、イベント時に用いる着付け体験用の着物を製作する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉布着物の品質を維持しながらの展示に適した展示ケースを購入する必要がある。 ・イベント時に用いる着付け体験用の着物を製作に向けて取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

- ・芭蕉布着物を適切に展示が可能なケースを購入し、喜如嘉の芭蕉布の魅力を発信する。
- ・さらなる魅力発信に向けて、着付け体験用の着物を製作に向けて取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,660	4,660	3,728	932	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○「喜如嘉の芭蕉布」を作成可能な団体は、喜如嘉芭蕉布共同組合のみであり、選定方法は妥当である。 ○当初予定した予算内で不用もほぼ生じておらず、予算規模は適正であった。 ○当初予定していた着物を作成しており、目的に即し、必要なものと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	